



(参考仮訳)

プレスリリース No. 12/413
即時解禁
2012年11月5日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による、 G20 メキシコシティ財務相・中央銀行総裁会議に関する声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は本日、メキシコシティで開催された主要 20 カ国・地域グループ (G20) 財務相・中央銀行総裁会議の閉会にあたり、以下の声明を発表した。

「G20 閣僚級会議を開催したホセ・アントニオ・マアデ財務相およびアグスティン・カルステンズ・メキシコ中央銀行総裁に感謝の意を表するとともに、主要 20 カ国・地域グループ議長国であるメキシコ当局の尽力に敬意を表する。議長国メキシコの優れたリーダーシップの下、G20 は世界経済の回復の安定化に向け大きく前進した。なかでも、メキシコ当局は、4,610 億米ドル規模の世界的なファイアウォール (防火壁) を構築し、より健全な経済および金融状況の回復に努める加盟 188 カ国を IMF が支援するためのより良い環境を整備するという我々の取り組みにおいて、中核的役割を果たした。メキシコを中心とした G20 は、我々の金融およびマクロ経済のサーベイランスの一層の強化に対する支持を表明したが、これは一段と相互関連性が高まった世界経済において、脆弱性を特定しまた抑止するための我々の能力の向上を支えることになろう。

一方で、世界経済は引き続き困難な情勢にあり、必要な政策措置が講じられない場合、脆弱な世界経済の回復は依然としてリスクにさらされている。米国については、早急にいわゆる「財政の崖」に対処することが重要であろう。遅滞なく行うことが不可欠であり、ワシントンの大きな政策の不確実性の問題に取り組む必要がある。日本も同様な課題に直面しており、やはり早急に今後の計画を明確に示す必要がある。欧州は、引き続き世界的課題であり、より安定したユーロ圏の確立という自らの政策コミットメントを遂行しなければならない。メキシコシティでの 2 日間の協議では全ての関係者が事態は切迫しているとの認識を共有していることが明らかとなり、私はこの協議により政策面の成功の可能性が一段と高まったと確信に至った。

IMF は、国及び国際レベルの経済政策が、より力強い成長を促進するとともに、より多くの雇用を創出し、世界の貧困を削減するための確実な解決策を積極的に追求することで、自らの役割を果たすことに引き続きコミットしている。さらに、先のワシントン, D.C. 20431 ● 電話: 202-623-7100 ● ファックス: 202-623-6772 ● www.imf.org

東京での年次総会でも示したように、世界の最も貧しい国々に対する、譲許的融資のためのプール資金である我々の貧困削減・成長トラストによる融資を通じて行う支援について、大きく前進した。我々は、新興市場国および途上国の世界での役割が変化するなか、IMFの正当性の維持に資する重要なガバナンス改革の完了に向け、G20加盟国と今後も協力して取り組む。これに関連し、G20が、新たなクォータ計算式の原則について合意に至るとともに、次回のクォータの一般見直しを2014年1月までに完了することに改めてコミットしたことを歓迎する。

結果として、メキシコシティでのG20閣僚級会議はより力強い世界成長の回復に向けた公共政策コミュニティーの今後の取り組みの節目となった。これは、行動のペースが明らかに重要な困難なプロセスである。この点において、G20にはロシアのリーダーシップのもとで取り組みを継続することを期待する」